

## 第3回検討会議 アンケート指摘事項の確認

### 【指摘事項①】

- ・交通ルールの遵守状況「ヘルメットの着用遵守状況」の「守っている」が24%であるのに対し、「ヘルメットの保有状況」の「保有している」が19%であるのは、どのような理由があるのか。  
(着用率<保有率となっていない理由の確認)

### 【確認内容②】

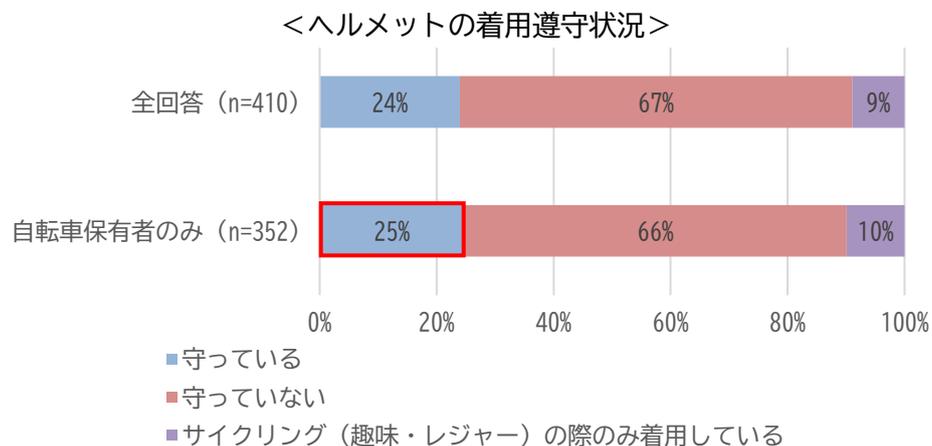
#### 1. 確認の前提条件

- ・ヘルメットの着用遵守状況の回答者数 (n=410) が、全回答者数 (n=847) に比べて半数程度と少なく、選択肢に関心が低い方(自転車を利用しない方)などに回答されなかった可能性がある。  
→各ヘルメットの設問の回答者が、着用状況では自転車利用層に偏り、保有状況では全体が回答したため、回答割合が着用率>保有率になった可能性がある。
- ・そのため、集計対象を自転車の利用ができる人≡自転車保有者のみに限定として、「ヘルメット着用の遵守状況」「ヘルメットの保有状況」を確認する。

#### 2. 確認結果

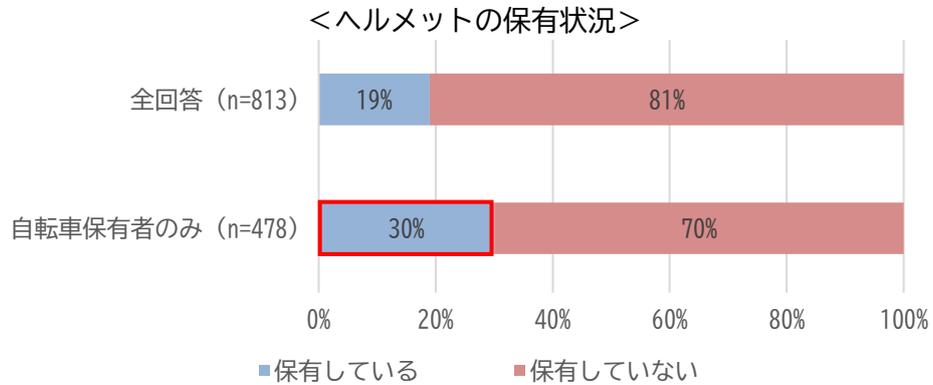
##### 1) ヘルメットの着用状況 (着用率)

- ・自転車保有者と全体の回答を比較すると、回答数が同等 (n=352、n=410)、遵守割合も同等 (25%、24%) となり、着用率は自転車保有者の傾向であると言える。



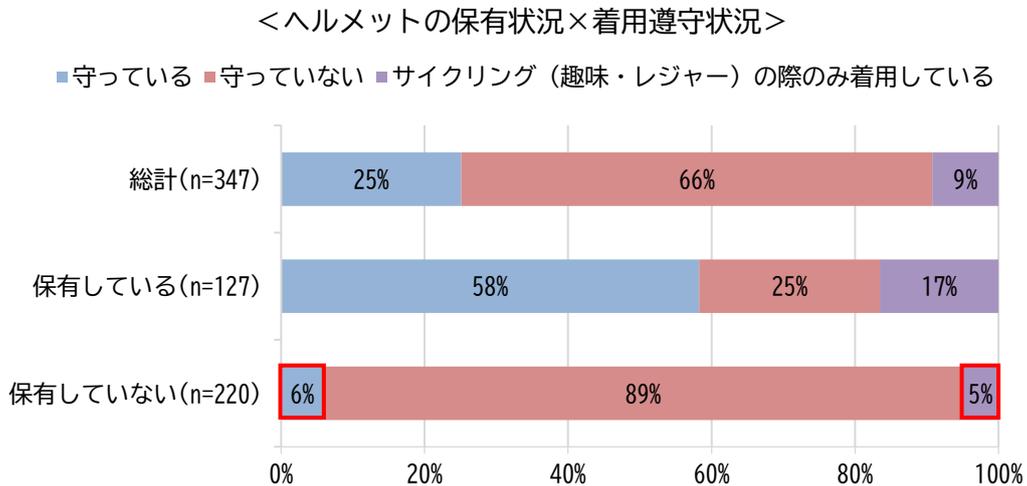
## 2) ヘルメットの保有状況（保有率）

- ・自転車保有者と全体の回答を比較すると、自転車保有者の方が、保有率が1割程度高く、1)の遵守割合を上回った。



## 3) まとめ

- ・自転車保有者に限定すると、ヘルメットの保有率が着用率を上回り、回答者の偏り（着用率の設問に全員が回答しなかった点）が影響と考えられる。
- ・なお、ヘルメットを未保有ながらヘルメット着用を「守っている」、「サイクリング（趣味・レジャー）の際のみ着用している」と回答する方が合計で約1割おり、データの取り扱いには注意が必要と思われる。



## 【指摘事項②】

- ・自転車用ヘルメットの購入支援制度がある市町において、ヘルメットの着用率や保有率に違いがあるのか。

## 【確認内容②】

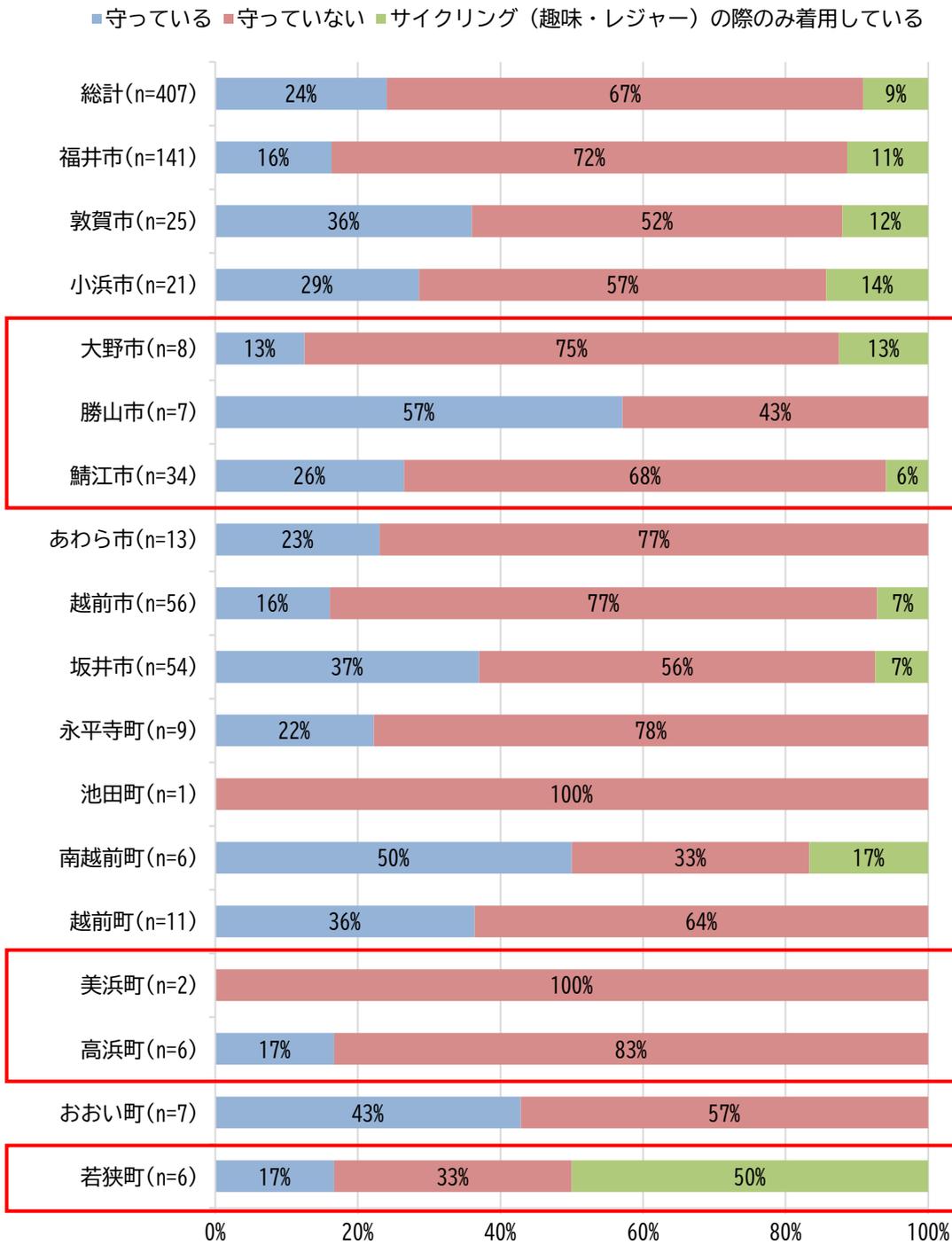
- ・ヘルメット購入補助を実施する下記都市の着用率・保有率を確認する。

### 【ヘルメット購入補助を実施する市町】

市町	補助内容（概要）	期間
大野市	幼児、小学生、中学生、高校生 1,000 円分補助	令和6年4月～
勝山市	購入金額の 2 分の 1 以内とし、1 個あたり 2,000 円が上限	令和6年3月～
鯖江市	高校生、および中学校3年生 1,000 円分補助	令和5年4月～
美浜町	13 歳未満の児童及び 65 歳以上の高齢者 購入価格の 1/2 (2,000 円まで)	不明
高浜町	上限 3,000 円分の地域通貨を交付	令和5年4月～
若狭町	○高校生以下 購入費の 10 分の 10 (上限 2,700 円) ○上記以外の方 購入費の 2 分の 1 (上限 2,000 円)	令和6年4月～

・ヘルメット購入補助がある市町の着用状況は、サンプル数が少ない勝山市を除き、県全体の「守っている」が24%を下回っている。

【ヘルメットの着用状況（市町別）】



- ・ヘルメット購入補助がある市町の保有状況は、サンプル数が限られているが、勝山市や高浜町で県全体を1割程度上回っている。

【ヘルメットの保有状況（市町別）】

